

タスマニアで学んだ建築 — 自然・歴史・暮らしとの共生

香川誠陵高等学校

普通科 2 年 橋川 奈央

私は今回のタスマニア研修において、建築をテーマとして探究を行いました。以前から、自然と建築がどのように共生できるのかということに関心があり、実際に現地で生活しながら、タスマニアの建築と自然環境、歴史、暮らしとの関係に注目しました。特に、ホバート・カレッジ内にある Sustainability Learning Centre、ホバートの街に残る伝統的な砂岩建築、そしてタスマニアの住宅について観察し、それぞれの特徴から持続可能な建築のあり方について考察しました。

まず、Sustainability Learning Centre についてです。この施設は、サステナビリティについて学ぶための施設であり、建物そのものにも環境への負荷を減らすためのさまざまな工夫が取り入れられています。例えば、建物の 98% がリサイクル素材でつくられているほか、太陽光を利用した暖房や、雨水を貯蔵して利用するタンクなどが設置されていました。また、夏には直射日光が室内に入りすぎないようにするなど、自然の力を生かした設計も見られました。私が特に興味を持ったのは、環境について学ぶための施設自体が、環境について考えられた建築になっている点です。自然エネルギーや再利用された素材を単なる設備として導入するのではなく、建物の構成や使われ方そのものに取り入れています。ここから、サステナブルな建築とは、環境に配慮した設備を設置するだけではなく、建物と自然環境との関係を設計段階から考えることでもあると学びました。

次に、ホバートの街に残る伝統的な砂岩建築についてです。タスマニアでは、砂岩を使用した歴史的な建物を多く見ることができました。地域で得られる砂岩は耐久性があり、長い年月にわたって建築材料として利用されてきました。私は当初、これらの建物を歴史的で美しい建築として捉えていました。しかし、建築という視点から改めて考えると、そこには持続可能性につながる側面があるのではないかと感じました。古い建物を壊して新しい建物を建てるのではなく、既存の建物を修復・保存しながら長く使い続けることは、新たな建設や解体に伴う資源の消費を抑えることにつながります。また、その地域で使われてきた材料や建築文化を受け継ぐことは、街の歴史や景観を守ることにともつながることから、このような考え方は、SDGs の 11 番「住み続けられるまちづくりを」や 12 番「つくる責任 つかう責任」とも関係していると考えます。サステナブルな建築は、最新の環境技術を取り入れることだけではなく、現在ある建築を大切に、次の世代へ受け継いでいくことも含まれるのだと学びました。

さらに、実際にタスマニアで生活する中で、住宅についても日本との違いを感じました。タスマニアでは平屋の住宅を多く見かけ、山の斜面など、周囲の地形を生かして建てられている住宅も印象に残りました。また、海の近くではオーシャンビューを生かした住宅も多く、窓やテラスから海や山などの景色を眺められるようになっています。自然を単なる「外の風

景」として見るのではなく、日常生活の一部として取り込んでいるように感じました。特に印象的だったのは、住宅と庭が明確に分けられているのではなく、窓やテラスを通して室内と庭がつながっているような空間です。これは、日本の建築における「庭屋一如」という考え方にも通じるものがあると感じました。実際にそのような住宅で生活したことで、建築は自然から人を隔離するためだけのものではなく、自然との距離を調整しながら、自然とともに暮らすためのものでもあると実感しました。私が滞在したホストファミリーの家では、2匹の犬を飼っており、庭で犬を遊ばせたり、近くの海岸まで毎日散歩に行ったりと、実際に暮らしの中に自然が身近に存在していました。建築コンペへの作品の提出に初めて挑戦しようと考えていた私にとって、とても興味深く、作品の構想を練る上での良い材料にもなったため、これから大学や社会人になって建築を考えたり作ったりするときにも役立てようと考えています。

今回の探究を通して、私は建築と自然の共生について、以前よりも広い視点から考えるようになりました。私が主に学んだ3つのこと。Sustainability Learning Centreからは、環境への負荷を考え、自然の力を生かすこと。砂岩建築からは、地域の歴史や文化、既存の建築を受け継ぐこと。そしてタスマニアの住宅からは、自然を暮らしの中に取り込むこと。これらは一見異なる建築のあり方に見えますが、共通しているのは、建築を自然や地域、人々の暮らしから切り離して考えていないことです。今回タスマニアで実際に建築を見て、そこに暮らした経験を通して、私は「自然と建築が共生する」とは、自然をただ守ることではなく、その土地の自然、歴史、文化、暮らしを理解し、それらと調和する建築をつくることなのではないかと考えました。

このように、今回の研修で、建築のことについて非常に多くの発見がありましたが、それだけではありません。自分の英語力を試せたことはもちろん、ホストファミリーと過ごした時間は私にとってかけがえのない記憶です。ホストファミリーやタスマニアでできた友達との関係は、これからも絶やすことのないようにしたいです。

最後に、今回このような機会をいただき、研修に向けてのサポートを行ってくださった香川銀行青少年育成支援財団のみなさまに感謝申し上げます。この経験を自分の将来だけでなく、香川の将来に還元できるよう、精進してまいります。



8月4日 ホバートカレッジ日本語クラスにて茶道を披露